

(様式6-A)

Syahla Nisaa Amalia氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Suppression of Neuropeptide by Botulinum Toxin Improve Imiquimod-induced
Psoriasis-like Dermatitis via the Regulation of Neuroimmune System
(神経免疫機能を介したボツリヌス毒素による乾癬の病態制御機構の解明)

Journal of Dermatological Science, 101:58 ~ 68, 2021

Syahla Nisaa Amalia, Akihiko Uchiyama, Hritu Baral, Yuta Inoue, Sahori Yamazaki,
Chisako Fujiwara, Akiko Sekiguchi, Yoko Yokoyama, Sachiko Ogino, Ryoko Torii, Mari
Hosoi, Osamu Ishikawa, Sei-ichiro Motegi

論文の要旨及び判定理由

Syahla Nisaa Amaliaらは乾癬の病態において近年注目されている、神経免疫機能に着目したボツリヌス毒素による乾癬の病態制御機構に関する研究を行った。著者らはイミキモドクリーム外用誘導による乾癬モデルマウスを用いてB型ボツリヌス毒素を局注する実験を行った。その結果、ボツリヌス毒素は酸化ストレスを抑制し、さらに炎症細胞浸潤（T細胞、樹状細胞）や炎症性サイトカイン（IL-17AやIL-17F）、神経伝達物質（CGRP）を軽減することで乾癬の皮疹の重症度を抑制する機序を示した。さらにCGRPアンタゴニストを用いた検討も行い、ボツリヌス毒素同様に乾癬様皮疹の重症度やIL-17Aなどのサイトカイン産生を抑制することをしめした。本研究に関する実験内容の正当性や妥当性、また研究成果を基にした今後の臨床への治療応用の可能性が認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

(令和3年7月21日)

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
薬理学分野担任 川 辺 浩 志 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
内分泌代謝内科学分野担任 山 田 正 信 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
生体防御学分野担任 神 谷 亘 印